

インターバンクの声（2014年12月19日）

一昨日の今年最後となった米連邦公開市場委員会（FOMC）は、注目となった声明文が今までの事実上のゼロ金利政策を『相当な期間』続けるとの文言に、利上げまで『忍耐強くいられる』との文言が加わった。市場の利上げ開始時期が今までと大きな変化はないとする見方が多い一方で、以前 FOMC が声明文に今回と同じような文言を用いた際には、数回の FOMC を経た後に利上げがあったとして、2015年半ばを待たずに利上げがあるとの見方もある。原油価格の大幅な下落がドルにとっても悪影響を及ぼす懸念も出始めていたが、そうした心配は米国株式市場が大幅続伸となっていることで抑え込まれている。リスクオフが強まったことで買いが集中していた米国債も、昨晩は10年債やロングボンド（30年債）が、ともに10ベースス近い利回り上昇となった。為替相場では、ドル円の値動きが余りにも激しく危険だとして、年内の取引を極力回避する指示を出す金融機関もあるようだ。市場参加者が減って流動性が著しく減少した荒れ相場が年末まで続きそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。